

# 総合クラブひろかわ

## 「ペットボトルロケットを飛ばそう」参加者募集

ペットボトルでロケットを作り、飛ばしてみませんか。うまくいくと最長で、130メートルくらい飛びます。(親子での体験も可)

9:00 [集合] はなやぎの里  
ペットボトルロケット作成 (1時間程度)

↓ (各自で移動)

11:00 広川ダム公園  
ペットボトルロケット飛ばしスタート!

↓

12:00 [解散]

※上記のスケジュールを予定していますが、時間が前後する可能性があります。

- 日時 10月22日(土)、9:00～12:00  
※雨天の場合 11月3日(休)・祝
- 集合場所 はなやぎの里 3階多目的ホール
- 対象 小学生(保護者同伴)～一般の人
- 参加費 材料代1,000円、保険代100円
- 申込期限 10月14日(金)



総合クラブひろかわ事務局 (生涯学習課生涯学習係内) ☎0943-32-0093

# 広川文芸

## ひろかわ短歌会



- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 散歩道鳴く鳥虫よ涼やかに今日も生きよと励ましくるる      | 姫野 洋子 |
| 里山の風と緑を楽しみぬ道案内のハンミョウ連れて        | 蓮子 住雄 |
| 病むほどにふるさと偲ぶ法善寺 祖母とお詣りそれもなつかし   | 横山 方子 |
| コロナ禍にひそかに詣づる山の寺逢ふ人もなくひぐらしの鳴く   | 野中 勝美 |
| 浴室の窓辺高くに洗い衣 あるじは入院十日後といふ       | 美座 時朗 |
| 陽光に百日紅のまぶしかり白に緋色をほどよく染めて       | 青木佳代子 |
| 孫たちの五倍は生きている私 身の丈すでに追い越されしよ    | 高橋 和子 |
| 朝の陽につゆくさ踏みて梨ちぎり去年より出来よく摘む手かろやか | 姫野 深幸 |
| 沸き上がる不穏な雲を払うごと緑の海に出穂の揺れいる      | 結束 節子 |
| 幸薄きわれに畑と短歌ありて忙しき日々の夜のやすらぎ      | 原 千恵子 |
| 殻つきの蚕豆揚げしをパリポリと食べつつおもふ戦中の壕を    | 野中ヨシ子 |
| 夕飯は夏野菜たつぷりのだんご汁寡黙な夫は無言で お味は?   | 鹿田 恵  |
| 花もやうの服を着たことなきひとはいつまでも硬き晩夏の林檎   | 山下 整子 |

# ふるさと再発見

広川町郷土史研究会

## 南北朝時代の郷土 その10

### 大保原の戦い

針摺原の戦（正平8年2月2日）を経て、同10年頃には形式的には、九州一円がほぼ官方の勢力下となつています。この状況を踏まえて征西將軍宮懐良親王は、自分は京都へ戻って中央政権で活動をとの考えのもと、吉野の後村上天皇に後継者の派遣を要請していましたが、五条家文書で明らかです。

一方の武家方も手をこまねいていたわけではなく、官方陣営に生じる隙を、虎視眈々と狙っていたのは当然です。この時に企図された東上計画は、遂に実現しませんでした。正平13年（1358年）12月、豊後国の大友氏時が、高崎城に拠つて官方に叛きます。懐良親王も自ら軍勢を率いて出陣し、これを包囲します。

翌14年4月16日、大友氏時の呼びかけに、なんと少弐頼尚が呼応して、大宰府を進発します。大友氏と少弐氏で官方を挟撃する行動に出たのです。ここで思い出してください。前月号で述べた熊野牛王の誓紙（起請文）のことを。七代にわたつて菊池氏に弓を

引かず、と誓つて未だ6年も経っていないではありませんか。

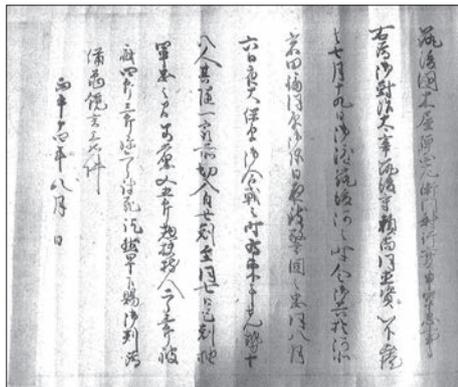
このことがあつて官方には、少弐討つべしの気運が高まつたことは、想像に難くありません。

### 大保原の戦の実相

一般的には、『太平記』に記述されている内容を信じている人が少なくありません。ところが古文書で確かめてみますと、くい違う箇所がいくつもあります。研究者の姿勢としては、古文書など同時代の第一次史料に依拠しなくてはなりません。読み物はどんなに詳しく面白くても、傍証にしかできません。まずは戦の日時が違います。

### 『太平記』では、

八月十六日夜半に始まり、卯ノ尅より酉の下がりまで（現在の時制では、午前6時から午後7時20分）、  
「木屋行実軍忠状」は、  
八月六日夜、丑の尅より同七日巳の尅に至り、（午前2時から同10時）



▲大保原の戦の実相を示す、木屋行実軍忠状

とあり、同時代史料の木屋文書こそ信憑性はあると考えると、疑う余地はありません。これまでは大原の戦（『太平記』）と呼び習わされてきましたが、現在は大保原御合戦（「木屋行実軍忠状」）に依拠して、大保原の戦と呼ぶ人が多くなっています。

戦に参加した兵力についても、武家方6万余騎・官方8千余騎（『太平記』）をはじめ、諸説あつて史実の断定はでき兼ねます。

歴史の史実を証する「木屋行実軍忠状」の木屋行実は、八女出身の武將で八女市黒木町木屋に、墓塔も残つており、南北朝時代の古文書8通は、貴重な文化財です。

### 広川町古墳資料館だより

岡山市在住の彫刻家・西平孝史氏（写真右）は、石人山古墳に彫刻されている直弧文を、10年前から本町教育委員会と共同で研究しており、彫刻された直弧文の図形型式を詳細にわたり検討。さらに町での体験学習で実際に確認した彫刻事例をもとに、

彫刻家として新たな視点で直弧文を解明する論文を書き、今年6月に考古学誌に掲載されました。ワークショップの成果は、資料館でも企画展や広報で紹介しました。今回、考古学会でも学術的に西平氏の研究が認知され、さらに注目度が高まっています。

